



中国やベトナムをはじめとする世界の情報を発信しています

中国情報 (INFORMATION CHINA)

2012年1月号

発行: 国際ビジネス情報協同組合

新年あけましておめでとうございます。
お正月は楽しく過ごされましたでしょうか？

本年の経済の視点は昨年からのユーロ圏の
「金融危機、マイナス成長、債務危機の連鎖」
米国の「格差拡大、雇用不安、消費低迷」
中国の「成長率低下、インフレ、格差拡大、人手不足」
また、新興諸国の情報を入手し
これが自社に関係があるかを見極める必要があるかと考えます。

～1月号掲載内容～

- *日本経済
- *欧州経済
- *米国経済
- *中国経済
- *スマートフォン
- *新春お宮参り
- *糖尿病にバイバイ

中国に関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先: info@ibia.or.jp

組合ホームページ: <http://ibia.or.jp/>

日本経済

本年の日本の大方の見方は次の通りであります。

- 1、経済成長率は1%後半位
- 2、物価はやはりデフレ傾向から脱却できない
- 3、失業率は4%位
- 4、為替は1ドル75円から79円
- 5、株価は1万円を超えない

震災後の特需で GNP(国内総生産)が持ち上がったが、リーマンショック以前の状態までは達していません。

貿易収支も赤字だが所得収支(海外での子会社からの配当)などでこれをカバーしています。団塊世代が退職しても就業者数は減少し、国内の投資の収益率は低下しています。

世界中の国の債務は GNP 比 200%を超え、世界の中で一番の借金王国です。

昨年 12 月には 18 兆円の補正予算を計上し、大規模な経済の下支えをするとしているが、この大半はエコカー補助金の復活を除き、東北の震災復旧のためであります。この執行も遅れ経済波及効果も来年度以降になる見込みです。

このような経済情勢の中で、企業は果たしてどうすればよいのでしょうか？企業にとってはデフレ経済の中で「この円高を果たして乗り越えられるのか」「総人口の減少に伴う国内需要の低迷・減少傾向」これに加え「競合他社との競争の激化」など多くの問題が出てきています。

中小企業にとっての悩みを例に挙げてみました。

- ① 企業にあった人材が集まりにくい
 - ② 日本における人件費にかかる経費が収益を圧迫し、製品コストが掛かり過ぎる。
- 逆に

- ① 特殊な技術があるので他社に負けることはない
- ② 特殊な商品でありコストに見合った商品を製造できる

いずれにせよ、既に大企業の殆どが海外に企業進出を果たしています。中小企業として手をこまねく必要がありません。円高メリットを生かし、今の間に将来を狙い海外情報を入手し、企業進出を考える必要があろうと思われれます。

世界経済の動きが日本経済に、あるいは御社に…決して他人事ではない意識を持つことが必要です。

欧州経済

昨年は欧州の債務危機が世界の金融市場を混乱させた年でありました。これは 2009 年にギリシャの財政赤字が発覚し 2 年余り経ちますが、これを根本から解決したとは言えません。本来ユーロ圏内の経済的格差を考慮せず、財政などの主権各国に残したままで出発したところから今回の問題が始まったと言えます。

この問題を早期に解決すべく財政協定(財政の均衡義務付け)、ユーロ共同債、欧州金融安定化基金、EU 各国の IMF への融資など計画をしているようだが、即効性に乏しく各国の意見がわかれ解決には程遠いのです。

これに加え各付け会社の格下げを示され各国の国債の利率が上昇しており、イタリアでは 2 月から 4 月に大量の国債の償還期限を迎えます。このイタリアの債務規模が大き過ぎて金融支援は困難と見られ、デフォルト(債務不履行)になる恐れすらあります。果たして救済システムの構築が出来るのか、危機の連鎖はどこで止められるのか、今年はユーロ、欧州経済が如何に推

移すのかを注意深く見る必要があります、決して他山の石ではありません。

米国経済

米国は昨年 10 月から 12 月のクリスマスセールの実績率は 3% 近くになるとのこと。一見堅調のように見えますが、海外での利益の配当で国内では 2008 年に発生した金融危機からまだ立ち直っていません。特に雇用は深刻な状況が続き 9% 前後の失業率です。3 人に 1 人が貧困層という現実に「反格差デモ」も起き、起動的な景気の回復は出来るのか疑問です。

米国の景気の回復には住宅市場低迷の改善は必須条件である。しかしこれも先行きが不透明である。住宅市場が改善されなければ個人消費の拡大、経済成長へとは繋がらないでしょう。当年は大統領選挙の年であり、大胆な景気対策が取りにくく、これが足かせになり本年は「不透明年」になると考えられます。

中国経済

昨年度において中国が「不動産バブルの沈静化・インフレ退治」のために金融引締め(貸出利率等)を行ってきました。その結果、不動産価格の上昇は抑えられ、北京・上海・広州では下落傾向が見られるようになってきていますが、国民の不満には根強いものがあります。

物価の上昇傾向(インフレ傾向)は収まっておらず、輸出では下落傾向が見られています。

中国政府はこの二つの課題、「景気の減速感」「インフレ圧力」の相反する問題を如何に解決するか今年の課題となるでしょう。

広東省や浙江省で中小企業の倒産が相次いでいます。これに対し不動産業者に対する融資を制限し、一般中小企業に融資する策を採っています。また広東省では最低賃金引上げを凍結し、輸出関連企業とインフレを抑えることとしています。

中国経済は昨今の世界経済の牽引力となってきましたが、中国の財政は日米欧と違いまだまだ余裕がありどのような舵取りをするかが、今年の世界経済にも少なからず影響を与えることは間違いありません。

スマートフォン

スマートフォン(以下スマホ)の普及率は各社の調査によると 12% から 23% とまちまちです。

各国の普及率を見るとシンガポールの 62% と筆頭に、2 位オーストラリアとなっていますが、調査対象となった国では最下位です。

その理由は多々ありますが、考え方が「狭い」言い方を換えれば「ずっこい」「せこい」です。PC との接続が出来ない、各社で SIM ロックされているなどで、日本の電話(スマホ含)は世界共通ではないのです。

ドコモのスマホを見てみると、電波状況が悪いのに乗じて i モードの使用を強制しており日本の携帯全般に言えることは「ガラパゴス化」しており自社の使用を強制しています。

スマホはいいの? スマホ同士で同じアプリをダウンロードすれば通話料もメールもタダなのです。現在 CM でも流れていますが、「LINE ライン」と検索してみてください。

私 60 代の考え

スマホは非常に使い勝手が悪い。

それは画面が非常に小さく、拡大してもエクセルの添付ファイルが見えにくい。ずっと PC を

使っていたので奇異な感じがして、私達 60 代には電話は通話とメールだけあれば十分に思います。インターネットするのであれば少し大きめのタブレットというモノを使うと良いと思います。7 インチ～10 インチの画面で、ノート PC より遥かに軽くて楽チンです!!

こんな手があります。

WiFi 機能のあるスマホを持ち電話として使い、そしてこのスマホから WiFi を利用してタブレット（電話機能や他のオプションは申し込まない）や、ノートパソコンを利用する人が多くいます。これだと、WiFi 機器も要らないし通信費なども節約できます。

今やスマホは若い人達には財布よりも大事なものです。電車の中で、喫茶店で、歩きながら操作して笑ってる人もよく見かけます。画面ばかりに気を取られ事故の危険に遭いやすいし、この子達の間人間関係は大丈夫なのかと心配してしまいます。

若い人達が何を見ているか、どんなアプリケーションを使っているのかも興味がありますけどね!!

新春お宮参り

新春に宗派を問わず特別な違和感無しにお宮参りをする人が多いですね。そこで神道の勉強を少しだけしてみました。

手始めに作法は、鳥居をくぐればそこは神が占有する領域です。ここから作法が始まります。

鳥居をくぐる時に軽く一礼する、参道の中央は正中と言い神様のための道であるので避けて通ります。社殿の境内では帽子や喫煙、飲食は慎むべきことです。

例) 伊勢神宮の参道の中央には盛り木が設置され通らないようにしている。

☆手水舎(手を洗って清めるところ)

- ① 手水舎の前で一礼
- ② 右手で柄杓を取り最初に左手からすすぐ
- ③ 右手に持ち替え、左手をコの字状に丸め口をすすぐ
- ④ 左手に柄杓を持ち替え右手をすすぐ
- ⑤ 柄杓を立てて、残った水で柄杓の柄を清める
- ⑥ 柄杓を元の場所に伏せて戻す

☆お賽銭と鈴

お賽銭は神へのお供えであるが、古くは米・酒・幣帛（絹の反物）や海や山の幸を供えるのが一般的であった。賽銭は神への供え物であると同時に穢れを祓うためのものです。参拝者にとって賽銭は自分の魂の分身であると考えられているため、その賽銭に穢れを付着させて投げ入れることで穢れを祓います。

賽銭箱の上には鈴が吊るされていますが、この鈴の音は魔よけの力があると考えられてきました。

- ① 鈴を鳴らす
- ② 鈴の音がその場を浄化する
- ③ さらに神霊を起こして喚起させる
- ④ 礼拝者の魂を活性化させる

☆礼拝の方法と拍手の作法

参拝の基本は「二拝二拍手一拝」です。まず賽銭を入れ御鈴を鳴らします。

- ① 拝殿の正面に向かって姿勢を正しくし、軽く一礼をする

- ② 次に深々と2回頭を下げる。
 - ③ 両手を合わせて拍手を2回打つ(拍手を打つ音が高く響くと良いと言われている)
 - ④ もう一度深く拝してから後ずさりして拝殿から退く
- この儀式は「神霊を喚起させ邪気を祓う、あるいは神に対して心から従う」という表現です。

古い社では独自の作法のところもあります。

伊勢神宮では「八開手(やひらて)」といって、拍手を八回するところもあります。

☆ お守り

一般にお守りといわれているものは神札を携帯できるようにした「守札」であり、中には水晶や勾玉をお守りに頒布している神社もあります。

☆ おみくじ

おみくじは「御神籤」と書き、その結果が神の御心の表れとされますが、おみくじを引くときは一喜一憂ですね!

凶が出れば今年是最悪～なんて落ち込みます、でも心配ありません。これから運気が上がっていくのです、逆に大吉が出ればどうします? これを維持していくのが努力です。

昔の人は吉凶を越えた「平」を歓迎したそうです。神道の基本は「平穩無事こそ尊い」と考えたのです。現在「平」のおみくじがあるのは京都加茂神社や石清水八幡宮だけです。

(参考・神道の本より)

糖尿病にバイバイ!?

年齢を重ねると共に血圧が高くなり、尿酸値や血糖値やコレステロールなどの数値が高くなってきます。近年では若い層での増加傾向もありますが、これは遺伝だけではなく食生活にも大きな問題があるのではないのでしょうか?

私は50代から血圧が高めになり、60代から血糖値が高くなり医者からは糖尿病予備軍と言われ自分の身体がとても心配になりました。血圧も怖いですが、糖尿病も怖くて一生懸命病院へ通い薬で…と意気込んでおりました。

そんな時、社員から一言言われたのです。

「医者では治りませんよ、この本を読んでみて下さい」と…確かに…医者に行っても薬を出してもらい、詳しい話もありません。だって医者は薬を出すのが一番の仕事ですから。。

その本には糖尿病を克服するために簡単な事が書いてありました。

それは「炭水化物」を極力食べないことでした。

炭水化物と一言と言っても沢山の物があり、それはほぼ主食となっており我々の食生活には欠かせないものとなっています。

米・パン・麺類・根野菜…これらは糖の固まりで糖尿病には禁断の食物なのです。

この炭水化物にサヨナラを告げて一体何を食べればいいのか!?

私も最初はビックリしましたが、なんとその食物は「お肉」だったのです。

お肉には霜降りのサーロインもあれば、脂身の少ないヘレ肉もありますし、牛肉だけではなく豚肉も鶏肉もあります。ここで言うお肉は脂身の無い「オージービーフ」です。

若い頃は霜降りたっぷりのお肉を沢山食べましたが、40歳過ぎからは一口二口食べるのが精一杯で、アッサリとした脂身の少ないヘレ肉を好むようになりました。ですのでオージービーフへの切り替えも難なく変えることができました。

朝ごはんにお肉、お昼も極力お肉を食べるようにし、勿論夜ごはんもお肉です。

しばらくは米を食べず、葉野菜で過ごしました。そりゃご飯が食べたい時もありましたが、自分の身体の為ですから我慢を貫きました。

1ヶ月後に病院で検査をしてもらおうと…血糖値は正常値に…。

医者は「一体どうやって? 何をしたんです?」と不思議がっていました。

私は嬉しくなり、友人にも話しました。

誰もが「お肉ばかり食べるのは身体に悪い!!」「米はやめられないよ!!」と言います。でも、お金があっても一番大切なのは自分の身体です。それをわかっている人は色んな情報を耳にし、藁をも掴む気持ちで一杯なのです。

友人の二人は「一度試してみよう!!」と、お肉生活を始めました。

なんと!! 私だけかな?と思った部分も正直ありましたが、友人も医者を一ツクリさせて医者が色々聞いてきたそうです。

彼等の糖尿病がかなり重病だったようで、今では「命の恩人」とまで言われます。

日本人の主食はお米だと昔から言われていますが、農業を操作する為に国を挙げて米を進めてきた事もありますが、糖尿病にとって農林水産省は敵なのかもしれませんね。

考えても見てください。昔は電車や自動車がなく、どこへ行くにも歩いたのです。現代社会のようにパソコンも機械もなく、全て全身を使っただけの作業だったのです。そんな時代と同じように米(糖)を食べて健康でいられるのでしょうか?

運動不足でお米を食べ、果物やお菓子を食ベジュースやビールを飲むのです。人の身体も少しずつ変化して当然じゃないのでしょうか?

食事の後に「別腹」なんて言ってデザートを食べるなんてもう最悪です。

食物の3要素とは何でしょうか? 中学校で勉強しましたね、思い出して!!

炭水化物・脂質・たんぱく質の3つです。

炭水化物(糖質)主にエネルギー源でブドウ糖に分解されます。

米、めん類、イモ、果物、菓子類、砂糖などに多く含まれます。摂り過ぎると脂肪として体に蓄積されます。

脂質は脂肪酸に分解され主にエネルギー源として使われます。脂質を多くとりすぎると生活習慣病にかかりやすくなります

たんぱく質は主に筋肉や臓器や血液をつくる材料で、肉・魚・大豆・大豆製品・卵などに含まれています。私たちの身体のいろんな部分もたんぱく質でできています。

ビタミンCだけは魚介類からは十分に摂れないのでサプリメントで、またミネラルは海藻で十分ですし、他のビタミンは魚から十分に摂取できます、

要は糖になる食物を食べない「断糖」です。一度試してみてください!!

中国に関する情報、ご意見、ご相談、またはご意見等々お待ちしております。

投稿先: info@ibia.or.jp